

先日、奈良の教会のお招きを受けて講演会をしました。久々のライブですが、3密を避けるために、極限定された方だけが選ばれて入られました。しかし、聞いている方々は、マスクをしての話は聞きにくいという事もあり、講壇の前に透明のビニールのフィルムを張ってくださったんですね。マスク無しで、ビニールフィルムの向こう側に聴衆を置いてお話しをするという事にしたのです。

講演が終わって、ふとビニールフィルムを見ると、無数の飛沫の痕がありました。多分 100 か所以上。やっぱりね、飛んでるんですね。皆さんは YouTube なので私の唾で被爆する事はないけど、いくら掛かっても大丈夫という時代が早く来てもらいたいものだと思います。

ところで、今の騒動が終わったら世界は一体どうなるのか、未来学者と言われる人たちが、今様々な提言や予想をしています。そのお一人が落合陽一（おちあい よういち/1987-）さん。

お父さんは落合信彦（おちあい のぶひこ/1942-）さんです。もし現代イスラエルの事を学びたいなら、彼が書いた『モサド、その真実』という文庫を、是非お読みになる事をお薦めしたいと思います。

落合陽一さんは 32 歳にして筑波大学学長補佐ですよ。デジタルメディアの研究者・開発者であり、カメラマンでもあり、随筆家・実業家で、政府にも「21 世紀のビジョンはこうではないか」とブレインとして活躍されている超マルチ人間。彼が書いた本は、私もひと通り目を通すようにしています。

この方が現在この人!と見込んでいる日本の知性の代表者 5-6 人を集めて、「コロナが終わった後、落ち着いた後、世界はどうなっているのか。ポストコロナでパラダイムシフトが本当に起こるのか」を色々話し合う番組を見ました。

大手予備校 河合塾の世界史の先生 青木裕司（あおき ひろし/1956-）さん。伝説的予備校教師です。彼が、今注目されている本を紹介しました。アメリカの歴史学者クロスビー（1931-）が書いた『史上最悪のインフルエンザ』。サブタイトルは『忘れられたパンデミック』。

世界史的に見た時、パンデミックは 3 つあったと言うんです。

①14 世紀のペスト。②16 世紀の天然痘。これがヨーロッパから持ち込まれて、南北アメリカでたくさんの方々が亡くなった。③20 世紀のスペイン風邪。スペイン風邪と言うけど、要するにインフルエンザ。亡くなった人数は、①ペストは 5 千万から 1 億。②天然痘は 2800 万人。③スペイン風邪は 5 千万。この 3 つが、世界史上に現れた脅威的パンデミックとされています。

この本によると、前の 2 つと 20 世紀のスペイン風邪は全然違う。ペストと天然痘のパンデミック後は、世界の流れも民族構成も文化もガラッと激変して、それが蔓延する前と後では世界の様相がまるで違っていた。ではスペイン風邪で何が変わったのか。結論を言うと、何にも変わらなかった。なぜなら、死者の数で統計を取っているから。

ペストの 5 千万から 1 億。5 千万人というのは、ヨーロッパ人口の約 3 割の方が亡くなったのです。天然痘で南北アメリカ大陸で 2800 万人亡くなったと言うけど、当時南北アメリカ大陸の人口は 4 千万くらいなんです。人口の 75%が消えたんです。

ところが、20世紀（スペイン風邪）の5千万人は死亡率でいうと3%。だから、亡くなった方の合計ではなく、人口に対する割合を見ないと、与えたダメージの深さが全然分からないじゃないか。

20世紀は数では5千万人と多かったけれど、世界人口が多かったので大きな影響は残さなかった。

そして今回のコロナ騒ぎ。今日の段階で730万人が感染して41万人が亡くなった。

これは世界人口77億人なので0.05%なんです。なので「コロナが終わっても世界は変わらない。大きな変化はない。パラダイムシフトは起こらないのではないか」というのが、この歴史の先生の提言でした。

それに対して落合陽一さんが「でもね、死亡率だけでは、パンデミックが起こったか起こらなかったかを測れないんじゃないでしょうか」と言って、「人類は色んなピンチになった時、それを切り抜けるために新しい道具を開発して来た」と。彼はコンピューターや色んなサイエンスグラフィックの関係で、新しい道具を次々に開発・提案・研究する仕事をやっているの、道具という事にすごく興味があるのです。

人類はピンチの時に新しい道具を作り、ピンチが消え去った時、その道具は廃れるのではなく、思っても見なかった別の使い方をして、10年単位で見ると、新しい道具の出現によって社会が根底から変わって来る事がよくあった。

紹介した1つの例がコンピューターです。コンピューターはポルトガル・ブラジル語で、コンは「箱」・ピューターは「話す人」。だから、コンピューターは「言葉の箱・コミュニケーションする箱」とも言える。コンピューターが世界で最初に作られたのは1942年。この年にアメリカが開発を始めます。

1942年1月に何があったか？日独伊3国同盟。そして6月、ミッドウェー海戦で我が方が敗れた。

1943年には何とイギリスがコンピューターを完成しました。ドイツの暗号を解読するためです。

戦争は情報戦です。相手が何を考え、次どういう手を打って来るのか、前もって分かっていたら手を打つ事が出来る。イギリスはエニグマという暗号をコンピューターで解読し、ドイツがどう出るのか筒抜け状態だった。これは、戦争の勝敗を決する決定的な事でした。

コンピューターの存在は軍事機密だったので、誰にも知らされていませんでした。やがて、コンピューターが一般社会にも明らかになるようになってどうなったか？コンピューターの出現で、21世紀はこれ無しに社会として成立しないところに行っている。死亡率は関係ないんじゃないか？

新しく登場したテクノロジーによって、そして、それを人間がどう使うかによって、人間は良くもなる。悪くもなる。それまでの時代になかったような事を生み出す事が出来るのではないか。

結局、その番組の結論は「誰も分からない。これからどうなって行くかは、間もなく分かるでしょう。」そら、終わったら分かるでしょう。しかし、近未来学者はこれからどうなって行くのか予測する事が出来るけど、ハッキリこうなると断言している書物があるんです。それが聖書です。

断言するだけなら“負け犬の遠吠え”という事もあり得るけど、聖書の場合は、書かれている事がそのまんま・文字通り・百発百中、全て実現して来たのです。

人類歴史は1つのストーリーです。ゴールに向かってまっしぐらに進んでいる。そのゴールを**終末**と言います。終末に関する預言が**終末預言**。特に**ヨハネの黙示録**が、ここにポイントを置いて語っています。今日は**ざっくり黙示録**。6章後半からご一緒に考えたいと思います。

黙示録は人類が最終的に突っ込んで行く時代/**終末時代**の事を語っていますが、ちょっと復習。

やがて、人類は7年間の特別な時代に入ります。この7年間は、人類にとって最も苦しい時代なので**患難時代**と呼ばれています。**患難時代**は**前半3年半**と**後半3年半**に分けられます。これで7年。
患難時代のスタートは、反キリストと呼ばれる人物がイスラエルと条約を結ぶその日が**3年半**の初日。
患難時代のラストは、イエス・キリストが地上再臨される日。これをもちまして、患難時代が終わります。

教会は患難時代にはいません。患難時代の前に、クリスチャンは皆天に引き上げられてしまうから。
クリスチャンは患難時代にはいません。その根拠は最後にお話します。
質問がたくさん来ておまして、一括で1箇所だけ説明させていただきたいと思います。
詳しく知りたい方は**#121**を是非ご覧下さい。

前半と後半。その前半を2つに分けて、**前半の前半**は患難時代の1/4。**前半の後半**も患難時代の1/4。
前半の前半を詳しく預言しているのが**7つの封印**。**前半の後半**を語っているのが**7つのラッパ**。
今日は**第5の封印**と**第6の封印**を説明したいと思います。

最初の4つの封印の復習です。

第1の封印を開くと、**白い馬**に乗った者が現れた。これが反キリスト。

第2の封印を開くと、**赤い馬**に乗った者が出て来た。これは戦争。

第3の封印を開くと、**黒い馬**に乗った者が出て来た。これは飢饉。

第4の封印を開くと、**青ざめた馬**に乗った者が出てくるのですが、これが書いてあるのが**6章8節**。

黙示録6:8 私は見た。すると見よ、**青ざめた馬**がいた。

これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。

彼らに、**地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。**

世界人口の**1/4**が死滅する。殺される理由が4つ書いてあります。

①**剣**。戦争の事。②**飢饉**。食糧不足。戦争の結果、食糧不足になるのは予測できます。

③**死病**。食糧不足・栄養失調で体力が落ち、抵抗力がなくなるので病気が蔓延する。

④**地の獣**。これは反キリストではありません。この**獣**はギリシア語で「セリオン/生物」。生物・地の生き物によって殺される。

今回の新型コロナウイルス、元々はコウモリから人に感染したと言われてるんです。コウモリってウイルスの塊みたいな生きもんだそうで、体の中に色々なウイルスをいっぱい飼っているけど、超強力な免疫力を持っているために、感染しているのにビクともしないという生き物がコウモリ。

コウモリから他の生き物に感染して、こぼれ出た時に病気になる。コウモリから人に感染した。

或いは他の動物を経由して感染した。人間はコウモリ並みの免疫力を持っていないので、こんなパンデミックになった！これは言わば、人類はコウモリによって殺されたとも言えるのではないかと？

ところが**9節**を見ると、今挙げた4つの理由で死ぬのではなく、それ以外の理由で殺された人物が出て来るんですね。

黙示録6:9-10 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」

第5の封印を解いた時に登場するのは、殉教し、天国で神様に向かって復讐を訴えている人々の魂です。1番目から4番目の封印を解いた描写は地上の様子だけど、5番目の封印は天の世界での描写。天で何が起きているかというと、信仰のゆえに殺された殉教者が、神に向かって復讐を訴えている。ここから3つのポイントで考えたいと思います。

1) 彼らは患難時代にイエス・キリストを信じたクリスチャンですが、誰から福音を聞いたのか?

患難時代、教会は既に天に上げられていてクリスチャンはいない。なのに、どうして福音を信じる事が出来たのか? 誰かから聞いたんです。誰が福音を教えたのか?

2) 誰が彼らを迫害しているのか?

3) 彼らが迫害されなければならなかった理由は何か?

3つとも、黙示録にバッチリ書いてあるんですね。なので、1つ目の疑問から解いていきましょう。

1) 誰が彼らに福音を語ったのか?

結論から言うと、教会がいなくなった後、144000人のユダヤ人たちが教会の役割である福音伝道を担い、世界中に出て行って、世界の人々に御国の福音を宣べ伝えるのです。日本も例外ではありません。

144000人のユダヤ人はどういう人たちで、彼らは誰から福音を聞いたのかという問題がありますが、これは次回第7章でやります。だから続きを聞かないとダメですよ。是非、次回お楽しみ下さいませ。

とにかく144000人のユダヤ人に聞いたんだという事を覚えて、1つの事だけ心に留めていただければいいと思います。それは、日本人も患難時代にユダヤ人のお世話になるという事。

世界中の人々は144000人のユダヤ人の働きゆえに、永遠の命を頂く事ができるようになります。つまり、世界中の命の恩人の役割を果たすのが144000人のユダヤ人なんです。

今、ユダヤ陰謀論とかユダヤ地下政府・ディープステートとかロスチャイルドがどうのこうの…。またもや反ユダヤ主義的なもの、そんな考えや思想的なものがゾロゾロ出て来ているんですね。深入りしない方がいいです。

というのは、ユダヤ人は日本人に、なくてはならないメッセージを届けてくれる命の恩人の役割をする事になるからです。日本のどこにもクリスチャンがいなくなった後で、御国の福音を日本語で伝えてくれるユダヤ人たちが日本にやって来ます。

反ユダヤ主義は反聖書主義です。それは聖書が勧めている考えではありません。却下してください。

2) 誰が患難時代に信じた人たちを迫害しているのか?

「反キリストでしょ?」 違うんです。

もちろん反キリストは既に登場していますが、反キリストは7年間の患難時代の前半3年半は、まだ独裁者ではありません。反キリストが自らを神と名乗り、人々に礼拝を強要し、傍若無人の振る舞いをするようになるのは、患難時代3年半経った中間です。

それまでの間、反キリストはある大きな組織の下に組み敷かれています。

前半の3年半、世界をリードし支配して、大きな発言力を持っているのは世界統一宗教です。

世界統一宗教の存在については、大淫婦/大バビロンという名前で黙示録17章に出て来ます。

だから、この存在についても、それまでちょっと待っていただく事になります。

17章になるまで聞き続けてください。「あと何年やねん?」みたいな事になるかも分かりませんが。

世界統一宗教の一番の母体は、**携拳**後、地上に残っている教会です。

携拳は、自称クリスチャンの全員が引き上げられるものではありません。本当に新しく生まれた者、本当にイエス・キリストを信じ救われている者たちだけで、文化的キリスト教は論外なんですね。

世界統一宗教…。「富士山は登山口が幾つかあります。御殿場口・吉田口・ナントカ口。入口/登山口は違うけど、登り切ると同じ所にゴールしますよね。門をくぐる宗教は、イスラム教もキリスト教も神道も仏教もヒンズー教も、結局ゴールは一緒。同じ」という考え、聞いた事ありませんか？

これはある意味、受け入れ易い考えかもしれません。

「宗教って、結局みんな同じなんです。」これ、ちゃんと宗教を調べた事がない人に限って、そう言うと思いますよ。正確に調べると、全然似てないから。でも、世界統一宗教はそれをします。

世界統一宗教を解く鍵は**バビロン**という言葉ですが、これ、横道に逸れると何時間あっても足りないので **17章**まで封印。

前半、クリスチャンを迫害するのは宗教家なんです。ヨーロッパの歴史を見ても、クリスチャンを本当に迫害したのは教会でした。名ばかりの教会。組織としては教会。

だけど、本物のクリスチャンかは別問題なんですよ。なので、1つだけ覚えてください。

皆さんがこのYouTubeを見て「聖書、興味深いな。いいな」。だけど、どこの教会でもいいのではないのです。美しいステンドグラス・パイプオルガン・素晴らしい建物。それは教会堂であって、教会ではない。

「100%、聖書の言葉は全て神の靈感によるものであると、本当に額面通り信じているか。」

これは1つの大きなチェックポイントになります。信じていない教会・信じていない自称聖職者の方々は、なんぼでもあります。ですから、建物の綺麗さで選ばないでください。中身で勝負。

3) 患難時代に信じた人たちが迫害されなければならなかった理由は何か？ なぜ迫害されたのか？

黙示録 6:9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

神のことばのゆえに殺された。そのことばの証しのゆえに殺された。

迫害された理由は2つ。

①**神の言葉**を神の言葉として保持していたから。

患難時代は聖書が徹底的に憎まれる時代です。この時代に登場する主要級の人物たちや、この時代の様々な事件の本質をあからさまに暴露しているのが聖書だから。

この時代のリーダーは言うでしょう。「これから世界は良い時代に向かって行くぞ！バラ色の時代だ！」しかし聖書は言うんです。「あと7年で終わる。あと3年半経てば、今清々しく登場している人物は自ら神と名乗るようになる。」

黙示録に書かれているその時代に黙示録を読むという事は、究極のインサイダー情報じゃありませんか？そして、この時の聖書は究極の反体制の危険文書ですよ。誰が悪者なのかをハッキリと語るんですから。だから、**神の言葉**を保持している・読んでいる・研究している連中、こんな危険思想にかぶれている危ない連中はいない!という事になる訳ですね。この時代、聖書は強烈な反体制の本であるがゆえに憎まれる。

②**神の言葉**を信じ、キリストを信じた人々は**証し**を立てるから。**神のことばの証しのゆえに殺された。**

証しには積極的な面と消極的な面の2つがあります。

積極的な面の証しは、教えられた真理を宣べ伝える事。伝道する事。

人々の前で大っぴらに伝道するのは出来ない時代かも知りません。しかし、メール・手紙・秘密の集まり・ロコミ・様々な方法で、「我々は大変な時代に取り残されてしまった。これからどうなるかは全部聖書に書いてある。この時代から抜け出すにはイエス・キリストを信じる以外にないのだ。キリストだけが私たちの救い主で、血を流してくださった方だ!」

もう1つの(消極的な面の)証し。患難時代にキリストを信じた人たちは、キリスト以外のものを絶対に拝みません。キリスト以外の、つまり「世界統一宗教を拝め!」となった時でも拝みません。

真(まこと)の神以外は礼拝しない。これも証しです。

2月に実話に基づく映画を見に行きました。『名もなき生涯』。オーストリアのクリスチャン夫婦に本当にあった事を描いた映画で、監督はテレンス・マリック。ハーバードで哲学を学び、ナチスと関係が深かったハイデッガーの研究をしていました。だから、ナチス問題に非常に明るい人。

夫フランツと妻フランシスカ。フランツは結婚するまで大分ヤンチャな奴だったけど、非常に敬虔なクリスチャンであるフランシスカと出会い、彼女に感化されて信仰に目覚め、彼自身も敬虔なクリスチャンとなって2人は結婚しました。3人の娘にも恵まれ、それはそれは絵に描いたように幸せな生活を送るのですが、第二次世界大戦に突入します。

自分の国オーストリアを守らなければという事で、フランツは軍事訓練に召集され、銃の撃ち方や塹壕の掘り方など軍のトレーニングを受けます。彼は国を守るために銃を取る事に対して、何も責められてません。国を守る事イコール自分の家族を守る事。だから兵役に取られたり、軍事訓練を受ける事はOK。胸を張ってそれをやります。

ところが、やがてナチスがオーストリアに侵攻し、オーストリアはナチス・ドイツの支配下に入りました。支配下で兵役として、最初にヒトラーに誓いの言葉を言わなければならない。それが「ハイル・ヒトラー」。これは、古代ローマの兵士がローマ皇帝に礼拝を献げる時にした敬礼の方法です。右の手の平を下にして、右手を前方に上げて。「ハイル」は万歳。「ヒトラー、万歳!」つまり、ヒトラーは第3帝国を夢見てた。

第1ローマ帝国は既に滅んだ。第2ローマ帝国は神聖ローマ帝国。「ナチス帝国は第3ローマ帝国だ!」だから、彼らの記章/旗印は驚なんです。彼はローマになりたくて「私は第3帝国のローマ皇帝だ。」第1ローマ帝国/古代ローマ帝国の皇帝は神とイコール。だから「俺は神だ。」

フランツは「それは出来ん!」。「国を守るために銃を取るのOK。国を守るために兵役に就くのもOK。国を守るために軍に色んなものを差し出すのもOK。しかし、この口で『ハイル・ヒトラー』と言う事は、私の信仰の良心が許さない!」。言わないんです。

ヒトラーに忠誠を誓わない。そうなると、この一家に村人からの同調圧力が掛かって来る。奥さんは近所付き合いからはじかれ、3人の娘たちはいじめの対象になり、彼が作った物は誰にも受け入れてもらえず、一家は村八分。「お前、いいカッコしてるみたいに見えるけど、そんな事して、俺たちにまで累が及ぶ事が分らんのか!」でも、どんなに言われても「私はイエス以外に拝むものは持ちません。」

とうとうフランツに召集令状が来て、新兵のブーツキャンプ(訓練)が始まりました。

最初にする事は「ハイル・ヒトラー」。皆一列に並んでやっている中で、彼だけ直立不動。「なぜやらない? やれ!」「それだけは出来ません」と突っぱねて行くんです。

結局、軍法会議にかけられます。軍法会議は一般の裁判よりももっと厳しい。弁護士が一生懸命「あなた一人がそういう事で抵抗したからって、ヒトラーの第3帝国がひっくり返ると思う? あなた一人が突っ張って、何か影響を与えらると思う? あなたね、自分の信仰のために家族を犠牲にしているの? あなたの信仰のために奥さんは困窮し、子供たちはいじめられて。信仰のために家族を不幸にするのは、夫として、父親として失格なんじゃないの? 言ってしまえ!」。言わないんです。

最後どうなるか。彼の村の神父が出て来て、神父が説得に掛かるんです。「あなたがキリストを崇めているのはよく分かってる。だから、心の中で崇めてたらええ。言葉だけや。動作だけ。」
フランスは死刑判決を受けています。その判決から死刑当日まで「ヒトラーに誓います」とサインしたら即刻死刑中止という紙があって、神父が一生懸命「サインしたからといって、信仰を捨てた事にならへんから、形だけ拜んどいたらいいじゃない。」ノー。サインしない。処刑されました。

彼の処刑時刻は村人たちに前もって知らされています。皆彼から距離を置いて「ええカッコしやがって」とか散々言っていたんですが、その時刻になった時、居たたまれなくなった1人の村人が教会堂に上って「ガラーン ガラーン」。追悼の鐘を村中に鳴り響かせます。
その時、家々から1人・2人、皆集まって祈りを献げるんです。

自分たちは真似できない。同じ事は、とてもじゃないけど出来ない。だけど、彼がやった事によって生き方…、すなわち、この世界には、どんな事があってもしてはならない事がある。それは、神ならぬものを神として拜む事。絶対しなければならぬ事は、正に人となられた神だけを拜むという事。

日本人がこれを見た時、どんな感想を持つかな…と思って、ネットでちょっと調べてみたら、「こいつがやってる事、考えられへん。家族に不幸持ち込みやがって」みたいな書いてあってね。せやろな(そうやろな)と思ったわ。せやろな一。

映画の最後、真っ暗になった時、ジョージ・エリオットの言葉が白抜きでサーっと出るんです。「歴史に残らない行為が善をつくって行きます。」
「世の中は確かに腐っているけど、この程度の腐りでストップしているのは、名もない人たちの善に踏み止まった行為によるのです。彼らは『名もない生涯』で、彼らのお墓も忘れられてしまうでしょう。しかし、この世が辛うじて正気を保っているのは、少数派だけど、永遠のものに向かって指を差している者たちの小さな行為ではなかったか」という意味の事。このひと言が良かったね。
映像がめっちゃくちゃ綺麗ですけど、その綺麗な景色の時間が長すぎて。あれ、ちょっと長すぎ。だけど、最後ビシッと締まりましたね。

それをやるんです。患難時代にクリスチャンになった彼らはイエス以外を拜む事はしません。なので殺されるんです。殺された後、

黙示録 6:10 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

これは「仕返ししてください」という次元の話ではありません。これは、正義が全うされないで、不正が

まかり通ったままである事に対して、正義の実行を求める渇きなんです。

自分がやられたからやり返してと、そんな子供みたいな事を言ってるんじゃない。

患難時代に横行している不正は、人間として絶対に許されてならない事が（それは後で出て来ます）まかり通っている。「神様、そういう事をいつまで野放しにされるんですか?!」

今週、横田滋（よこた しげる/1932-2020）さんが亡くなられて、めぐみさんのお母さんも弟さんも「悔しくてたまらない!」と言ってましたね。その「悔しくてたまらない」は心が狭いとか、そんな誰も言えないじゃないですか。それは正義を求める当然の感覚です。

ウルトラ級に醜い事が横行して、そのまま何にも裁きが起こる事なく進んで行く。そんな事があってはならない。「神よ、あなたは罪を赦すだけでなく、悪を裁くべき方ではありませんか!」という訴えです。

黙示録 6:11 すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。

そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

この裁きは必ずやる。必ず裁きを下す。でも、しばらく休みなさい。

彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数がまだ満ちてないから。

前半の段階ではまだ信じていないけれど、信じる事になる人たちが残っているので、彼らが信じる期間を確保するために待ちなさい。

ここは詳しく見たいんですが、もう行かなければなりません。1箇所だけ。もう1度 **6章9節**。

黙示録 6:9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

殺された者たちのたましいがどこにいる？ 祭壇の下にいるのを見た。ここは天国の事が書いてあって、天国にも祭壇がある。実は、天国の祭壇の様子を地上に現したコピーが、**旧約聖書**に登場する幕屋とか神殿なんです。ところで、祭壇の下にいるのを見た。と書いてありますね。

出エジプト記 29:11-12 あなたは会見の天幕の入り口で、主の前で、その雄牛を屠（ほふ）り、その雄牛の血を取り、あなたの指でこれを祭壇の四隅の角（つの）に塗る。その血はみな祭壇の土台に注ぐ。

大祭司はいよいよデビューして働きに就く前に、自分の罪を清めなければなりません。そのために、大祭司はまず雄牛の上に手を置きます。それによって、大祭司の罪が雄牛に転嫁された。乗り移った。

その雄牛を殺して肉を焼くのが祭壇。雄牛の体から出た血は祭壇の土台に注ぐ。

雄牛の肉は祭壇の上で焼くけど、血/犠牲の血は祭壇の土台に注ぐ。

雄牛の身代わりの死によって罪人の大祭司が聖い大祭司に変えられるように、患難時代に信じた人たちは、イエス・キリストの身代わりによって罪赦されるという事を信じているんです。

イエスの血は天の祭壇の土台、下に注がれている。彼らはなぜ祭壇の下にいたのか？

「私があなたに訴える資格はイエスの血潮です」と言っているのです。

患難時代に彼らを迫害した人と迫害された彼らは、両方とも同じ罪人です。何が彼らを分けたのか？

この人たちは、イエスの血潮を、自分の罪の償いの代価として信じ受け入れている点が違うんです。

彼らは信仰によって義と認められた人たちなんですね。

時間の関係で、第6の封印に行きたいと思います。

第6の封印で出て来る事は天変地異です。天が激変し、地球が異常な状態になる事。天変地異。第6の封印を解いた時に起こるのは天と地の両方で、地球歴史上無かったような異様な事です。

黙示録 6:12-14a また私は見た。子羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。

太陽は毛織りの粗布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが大風に揺さぶられて、青い実を落とすようであった。

天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、

まず起こるのは大きな地震。大きなはギリシア語で「メガス」。メガトンとかね。「メガ」は単位系で言うなら100万倍という意味。ギリシア語の普通の意味で使うなら「超巨大な」。メガは巨大。

黙示録では全部で5回地震が起こります。そのうちの1回目で、これはメガス/超巨大な地震。

まず地上でメガスな地震が起こると、次に天文界で4つの変化が起こるんです。

①太陽は黒くなり、②月は血のようになり、③星が地上にいちじくが落ちるように落ちて来て、④天が巻物を巻くように見えなくなった。この4つ。

ここだけ見てたら「何言ってるのや。そんな事あるか」と思うかもしれません。

①②太陽は毛織りの粗布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

今までの地球歴史上、マグニチュード9以上の超巨大地震が起こると、必ず火山爆発が誘発されます。必ずです。マグニチュード9以下でも誘発される時があります。しかし9以上になると、必ず火山爆発を呼び起こすんです。

現在世界に1500の火山があります。地球的スケールのメガスな大地震が起こった時、1500の火山が噴火を起こす可能性は非常に高いですね。噴火すると火山灰が吹き上がり、サブミクロン(1万分の1ミリ)単位の超微粒子が大気圏に蔓延するので、火山灰が太陽と地球の間に遮蔽物/カーテンのように敷かれる事でしょう。それで太陽が黒くなるんです。

同時に、火山灰は水蒸気を含んでいます。水蒸気を含んだ塵が大気圏に舞い上がると、月の見え方が真っ赤になるんです。

火山爆発と書いてないけど、地球規模のメガスな地震の後、地球から太陽と月を見た時の見え方が大きく変わったというのは、恐らくこの事を意図しているのではないかと考えています。

③天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが大風に揺さぶられて、青い実を落とすようであった。

台風が来てリンゴがポタポタ落ちたという話がありますね。強烈な風で実が枝に留まる事が出来ずにポタポタと落ちて行くように、天の星が地上に落ちた。

ところで流星/流れ星。これは、宇宙にある岩石や氷の塊が大気圏に突入した時に摩擦で燃えたのが、地上から見ると光って見えるんです。大気圏で燃え尽きず、そのまま地面に到着する物が隕石。

隕石は毎年数千個地球に落ちています。しかし、地球に届く隕石の殆どは非常に小さくて、中にはそうでないものもあるけど、クレーターを作る物ではない。小さいので実害が及んでいない。

なぜ実害が及ばないようになっているのか？これには太陽系の構造が関係しています。

太陽系は水金地火木土天海冥(すいきんちかもく どってんかいめい)。

冥王星は惑星に入れられなくなったので、水金地火木土天海（すいきんちかもく どってんかい）の8つ。この中で一番重い惑星は何でしょう？木星。木星は残り7つの星の全重量の2.5倍以上。飛び抜けてでかいんです。飛び抜けて重いんですよ。重いという事は、飛び抜けて重力が強いんです。

木星の軌道は、地球太陽系の外側に、いわゆる彗星雲（すいせいうん）というのがあるって、彗星雲自身も回転しているのですが、地球と彗星雲のちょうど中間に木星があります。彗星雲が地球に近づくタイミングで、木星が地球に一番近づく。つまり、彗星雲は地球に行く前に木星の重力によって吸い取られてしまうので、隕石が落ちて来ないんですよ。

もし木星がなければ、地球上に落ちて来る星/隕石は1000倍以上違うって。これはカーネギー・インスティテュートの天文学者ジョージ・ウェザリル（1925-2006）が詳細なレポートを出しています。「あまりにも絶妙に造られているではないか!」というレポートです。

そもそも宇宙は危険な場所なんです。それなのにこうやって生きて行けるのは、安全になるように何重にもシステム的に出来ているから。宇宙の中に自然界が存在している事ほど、不自然な事はないんです。地球から一歩出たら、生命体は何も生きる事は出来ないから。しかし、この木星軌道や銀河系の動きが変更されたら、それこそ、小惑星や隕石が雨あられのように降り注ぐ事が十分考えられるのです。

そして、宇宙の軌道に変化があるような事が、ここでどうも示唆されているんですよ。

④天は巻物が巻かれるように消えてなくなり、

巻物がクルクルと巻かれたら、書いてある模様は見えなくなります。

地上から人間の目視で見えるものが観察できなくなるような、何らかの異変が天界に起こる。

そうすると、今までの宇宙の秩序と全く異なる事が起こる事になるのです。続いて、

黙示録 6:14b すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

全ての山や島が移動する。それは、全ての山や島が乗っかっている物/プレートが移動するという事です。プレートが移動すると、その上に乗っかっている山や島も移動します。という事は、山や島の上で生活している人間も移動する事になるんです。つまり、逃げ場がどこにもないような天変地異が起こる。

これはヨハネがぱっと思いついて言っているのではなく、全部、**旧約聖書**に前もって預言されている事ばかりなのです。

ヨエル 2:30-31 わたしは天と地に、しるしを現れさせる。それは血と火と煙の柱。
主の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。

しるしは兆候やサイン。「今までとは全然違うぞ!」今までの観察と同じような事が起こるのではなく、非常に異なる特徴ある現象を現せさせる。それは血と火と煙の柱。

主の大いなる恐るべき日（**患難時代**）が来る前に、最終的な裁きが来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。この旧約で預言されていたのは、**黙示録**の第6の封印の事だということが分かるのです。

それから**イザヤ書**。イザヤ書は2700年前に書かれましたね。

イザヤ 50:3 わたしは天を闇でおおい、粗布をその覆いとする。

暗くなる。**患難時代**の特徴は光量が足りない。暗いんです。

イザヤ 34:4 天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。その万象は枯れ落ちる。
ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から実がしぼんで落ちるように。そのように、天の万象/星々が地面に激突します、と言っているのです。
その預言は前もって語られていたけど、そんな事は、これが語られた時に起こった例（ためし）がない。
しかし、患難時代にことごとく実現するのだと語っています。

黙示録 6:15-17 地の王たち、高官たち、千人隊長たち、金持ちたち、力ある者たち、すべての奴隷と自由人が、洞穴と山の岩間に身を隠した。そして、山々や岩に向かって言った。
「私たちの上に崩れ落ちて、御座に着いておられる方の御顔と、子羊の怒りから私たちを隠してくれ。
神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。」

恐れている人たちのリストを見ると、地位の高い人から低い人に至るまで全人類です。
全ての人々が震え上がっている。なぜ震え上がっているのか？
第1の封印から第4の封印は、どれもこれも災いです。戦争・飢饉・病気とか全部災いだけど、これは人間による企ての面がある。だけど、天体の動きや地上の地震とかは、人間が何かしたから起こす事が出来るものではない。これは、明らかに人の力を超えたところから及んでいる災害です。

その災害を受けたので震え上がっているその時、不思議な事に「単なる偶然・自然現象だ」と思うのではなく「神と子羊の御怒りの、大いなる日が来た。」「今起こっている事は神と子羊の怒りだ」とちゃーんと認識している。「これは患難時代だから起こっているのだ」と、その時代に生きて震え上がっている人たちが自覚しているんですよ。

「今までのどの時代にもなかった事が、今私が生きている時代に起こっている！これは神の怒りなんだ！」と分かっている。分かっているのに「だから、悔い改めて神の所に行こう！」ではなく、洞穴と山の岩間に身を隠した。そして、山々や岩に向かって言った。「私たちの上に崩れ落ちてくれ。」「神の怒りの中にあるから悔い改めて神を信じる！」ではなくて「死んだ方がマシや！」と言っている。

神の怒りと分かっているのに、和解するために神が提示している救いを、なぜ受け入れないのでしょうか？
私は3つほど理由があると思っています。

1) 黙示録 6:9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

イエスを信じたら、第5の封印で登場した人たちのように、酷い目に遭う事・迫害を受ける事が怖いから。
この時代にイエスを信じる事は、恐るべき運命を引き受ける覚悟無しにはできません。
「もし俺がイエスを信じたら家族はどうなるのか?!」みたいな。
あんな酷い目に遭うのかと思うと怖くなって決断できないというのがあるでしょう。

2) ズバリ、神が嫌いだから。

今まで自分が中心だと思って生きているので、本物の中心である神が登場するのを認めたくない。
正直言って、私も自分の心の中をよく見つめてみると、「神が神であられるのだ」という事を認めたくない思いがふっと湧いて来る事があります。
神が神である事を認めるならば、私がすべき事を私以上に知っている方がおられるのを認める事になる。
それを認めるなら「私が次にしなければならぬ事を、私に要求する権威を持つ方がおられる」と、私自

身が認めなければならない。そして、この神と関係を持ちたいなら、神が提示する条件を呑んで従わなければならない。そう思った時、ウツと身構えるというかね。

でも、「神は私を縛り付ける方ではなくて、実は解放を与えようとしている方・愛してくださっている方だ。」これは、イエス・キリストを見上げる事なしには絶対に知り得ない真理です。それが分かった時、「ああ、私は何と大きな損失を被り、無礼な事をしていたのか」と、心が変わられて行くんですね。

3) 神が嫌いだけでなく、悪が好きだから。

今はコロナ騒ぎで中断していますが、ホテル・ニューオータニで月1回、聖書講演会をやっています。7-8年か10年くらい前、結婚コンサルタントの方が「面白いから聖書の話聞きに行こうや!」と友人に連れられて来られ、「すごく良かった」とほめてくださって良い話しが出来ました。彼女は私より5-6歳年上ですが、どう見ても私より15は若いな。若づくりしているだけかも分かりません。でも若いんですよ。

「私ね、ミッションスクールの高校出たんです。高校の時に聞いた聖書の話、何にも残ってないけど、讚美歌だけは残ってるんです。讚美歌大好きだったんです。だけど今日の講演会、讚美歌1曲も歌いませんでした」と言ってね。まあ、よう喋るというか、ハキハキしてるというか明るい方で、今はある教会のクリスチャンだと伺って感謝です。

彼女の話で1個だけ覚えている事があるんです。「女性が綺麗になる方法は2つある。」
そんな興味ない? 「もう既にきれいだもん!」既にきれいな方はもっと綺麗になるために。
「女性が綺麗になる方法は2つある。悪い恋をやめてしまう事と良い恋をする事。」
聖書メッセージの後でそんな話題になって、私、ふにゃ〜(*崩れ落ちる)みたいな。
でも彼女の解説を聞きながら、言えてるかなという面がありました。

悪い恋とは不倫。DVの夫。ギャンブル依存症。めちゃくちゃ苦労して、本人は借金返せへんのに、妻が働いて代わりに穴埋めしてる。まだお付き合いの段階だけ。「切りなさい!」「こういうのは、もう切りなさい!」という意見。なぜ切れないのか? やっぱり情が移っているのと、「今度は心入れ替えるんちゃうか・上手くいくんちゃうか・ほんまに反省しているんじゃないか・今度の今度はもう大丈夫じゃないか。」
「良くなるはずがない!」と言っておられました。「なぜそれが分かるんですか?」
「私、それで離婚したんです。私は世の女性を救済するために、これをやっているんです。」

僕は“恋”というのは、あまり使い慣れていない言い回しなので、「不健康な関係を捨てて、健康な関係を結んで行く事が人生を良くする」という言葉に言い換えたいと思います。不健康な関係をやってても、いい事何にもない。絞られるだけ。刹那的にいい事・楽しい事あるみたいに思うけど、長い目を見た時、結局は人生を生産的に持って行く事は出来ない。

患難時代の人々は、ある意味で患難時代と結婚していますね。だから、それをやめて神と健全な関係を結ぶと言われた時「いや、そうは言っても…」という事が出て来たのではないかと。

この王たちは神ならぬものを神とし、本物の人となられた神/救い主を拒否する事によって、今生きている時代の自分のポジションを保っているけど、「そんな事、ずっと続かないよ」というメッセージです。

携挙の時にも人は救われ得るのですが、この時代に救われる・信じるという事は並大抵の事ではない。一番良いのは、患難時代の前にイエス・キリストを信じる事です。教会/クリスチャンたちは、患難時代の前に天に引き上げられるから。携挙の時、私たちはいません。それを最後に見て、終えたいと思います。

その説明をする前に“三段論法”を思い起こしていただきたいと思います。A=B, B=C, ゆえに A=C。
犬はワンと鳴く。うちのポチはワンと鳴く。従って、うちのポチは犬である。そういう事です。
これでも分からないなら、何回も繰り返し聞いてくださいね。

三段論法。第1テサロニケの手紙です。

Iテサロニケ 1:10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。
この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちを救い出してください
るイエスです。

イエスはなぜ天から来られるかという、やがて来る御怒りから私たちを救い出すため。
クリスチャンたち/教会は、やがて来る御怒りに遭わない。これが第1論法。教会は御怒りに遭わない。

Iテサロニケ 5:9 神は、私たちが御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得
るように定めてくださったからです。

私たちが御怒りを受けるようにではないとは御怒りを受けない。私たち、すなわちテサロニケの教会を
代表として、教会は神の御怒りに遭わない。これが第1論法。

では第2の論法。黙示録 6章 17節。これは第6の封印で、第6の封印は7つの封印全体のまとめです。
黙示録 6:17 神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。

患難時代とは神と子羊の御怒りの、大いなる日。患難時代とは神の大いなる御怒りの日。
特に子羊の御怒りと書いてあるでしょ。これは恐るべき言葉だと思っているんです。
子羊は人のために、神の前に立って執り成しをしてくださる方。神に対して罪人の弁明をし、赦しを勝ち
取ってくださる子羊が怒りの裁きの側に回った時、もはや執り成す人はどこにもいない。恐るべき事です。

まとめます。三段論法。教会は神の御怒りに遭わない。患難時代とは神と子羊の御怒りの大いなる日であ
る。なので、教会は患難時代に遭わない。よろしいでしょうか。

教会は神の御怒りに遭わない。患難時代とは神の御怒りの事である。従って、教会は患難時代にいない。
というのは、教会は神の御怒りに遭わないから。患難時代とは神の御怒りの日。なので、教会は患難時代
にいない。これ、永遠にぐるぐる巡回するだけですよね。
聖書はハッキリと「教会は患難時代にいない!」と語っているのです。

黙示録は直接的には7つの教会に宛てて語られています。患難時代の前に生きる人々のために書かれて
いるのです。つまり、こんなところ(患難時代)に行く必要はない。
神はあなたを愛して、あなたが帰って来るのを待っておられます。

どうぞ皆さん、この神様の愛に応じて、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れてください。
心からお勧めして終えたいと思います。



- * 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
- * ラジオ番組「聖書と福音」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube「ごうちゃんねる」(約 10 分) もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi

